

アハンのあのお



第7回
Back to School
新学期

皆さん、サインバイノー！
今月は桜が舞う中迎える、ドキドキ、ワクワクの新学期の時期ですね。

日本の学校の新学期が4月から始まるのは桜が咲く時期に合わせているのかと思います、調べてみたところ、桜というよりお米に関係していることが分かりました。

新学期が4月になったのは明治時代で、国の会計年度に合わせたからです。では、そもそもなぜ日本の会計年度が4月からなのかというと、税金の収入源が米だったことに関係しています。秋に収穫した米を現金に変えて納税するには1月に間に合わないため、4月となったという説明がありました。教育に何らかの関係が

あるというよりは、国の事情によつて新学期が4月からになったようですね。
モンゴルを含め海外の多くの国では新学期が9月に始まるのも農作物が影響しています。農作物(主に小麦)の収穫が8月で、収穫を



▲市内の田んぼ

子どもたちに手伝って欲しいと考え、海外では新学期が9月からになったそうです。お米と小麦、ライストパン。面白いですね。
日本が4月入学なのに対して、国際社会(欧米と中国など)は9月入学がメインであり、この新学期の違いによって、留学する日本人、留学生を受け入れる日本の学校では、学習内容をはじめいろいろな問題が発生します。
私が15年前に日本への留学を決めたときにも、新学期の時期が違うことで、入学まで半年も待つことになりました。



▲モンゴルの小麦畑

今一緒に暮らす息子2人は、来日後すぐに日本の小中学校に転校できましたが、学年が遅れが出て、3月までの半年間はモンゴルの時の学年より1学年下のクラスで過ごしました。しかし、自分たちが望んで来日しているのに、何十年もかけて作られた日本の決まりやルールに従う必要がありません。「郷に入れば、郷に従え」という異文化理解ですね。
4月は新学期で、さまざまな物事のはじまりとするのが日本の文化で、それに合わせて春が訪れ、素敵な桜の花と一緒に新年度が始まりました。
それでは、バイタルタイ。

問 協働まちづくり課
055(948)1412

第22回 海瀬 俊子 さん

大仁女性の会 代表



「子どもたちの喜ぶ顔が見たくてずっと続けてきました」。そう話すのは、22年間、小学校入学前の大仁地区の5歳児に『桃の根付(和風アクセサリー)』を贈り続けてきた大仁女性の会の代表・海瀬俊子さん。
東京出身で静岡県の高校教師になった海瀬さんは、20代のころ、伊豆の国市に移住しました。教師として多くの子ども関わった一方で、地域の活動ができなかつたと感じていました。そのため、「退職後は地域と関わり、地域に貢献したい」と、当時の会長に誘われるままに女性の会へ入会しました。

地域の絆を深める根付

海瀬さんが入会した当時の大仁町女性の会は、さまざまな社会貢献活動を行っていました。市になって20年近く経った現在も当時のメンバーが毎月集まり、『ひなのつるし飾り』作りなどの活動を続けています。

大仁地区の幼稚園・保育園を回る『桃の根付』のプレゼントを始めたのは平成15年から。桃には、悪霊退散、延命長寿などの厄除け効果があるとされ、根付には、「小学生になる子どもたちが、小学校でも安全に楽しく過ごせるように」という温かい気持ちが込められています。

メンバーも、毎年根付を贈るのが楽しみで、「子どもたちから元気をもらっている」とのこと。長年続けた結果、根付をランドセルに付けた子どもが登下校中に声を掛けてくれたり、子どものころに根付をもらった大人が覚えていて話し掛けてくれたりすることもあるそうで、「贈り続けて本当に良かった。これからも続けていき、地域全体で子どもたちを見守りたい」と意気込む海瀬さん。
今後大仁女性の会の『桃の根付』が、地域の老若男女の絆を深めていくことでしょう。

かんたん手話講座 ④8 入学

障がい福祉課
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

聴覚障害児のための学校は静岡県に3校あり、東部地域には沼津聴覚特別支援学校(ろう学校)があります。桜が満開のころ、体育館に入場したとき、先生や在学学生、保護者たちに大きな拍手で迎えられたことが懐かしく思い出されます。

両手のひらを手前に向け、斜めに立てて並べて置き、両手人差し指で作った漢字の「入」を胸の前に出しながら指先を前に向ける。

